

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 10月 16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200213		
法人名	株式会社 富山学園		
事業所名	グループホーム ほのぼの苑 長東		
所在地	広島市安佐南区長東西3丁目1-5 (電話)		
自己評価作成日	令和2年9月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200213-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年10月5日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

当苑では、開設時より「笑顔」を大切に一日に一度は必ず利用者様を自分の力で笑顔にする努力を重ねてきました。長東の地に開設して13年目に入りましたが、今、その成果が現れ、朝の挨拶より利用者様と職員、利用者様同士、職員同士、それぞれで明るい笑い声が聞こえます。その効果もあり、新しく入られた方がすぐに慣れて下さり、帰宅願望や徘徊等、問題行動も見られず居心地の良い環境作りが出来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

基本理念にある「真心と笑顔を持ち」を念頭に置き、利用者により多く関わりを持ち、一人ひとりの思いや状態の把握に努め、個々に応じた支援をしている。また、変化に富んだレクリエーションや行事、運動等の取り組みを行い、利用者が笑顔で楽しく過ごせるよう創意工夫している。現在はコロナ禍で難しいが、地域交流も盛んに行っており、地域行事の参加や小学生との交流会、事業所へのボランティアの参加、近くの大学生による音楽療法など様々である。事業所で看取りを行っており、医師、家族、職員と連携を密に図り、より良い形で最期を迎えられるように環境を整え、支援を行っている。食事は3食とも手作りで、利用者のリクエストを取り入れながら、柔軟に対応している。おせち料理、バイキング、おやつ作りなど食事が楽しくなるよう工夫を重ねて提供している。

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝、申し送り時、理念である「私たちは、真心と笑顔を持ち、やすらげる環境の中でお一人お一人を尊重し、楽しみ・喜びのある生活を送って頂けるように支援します」を唱和し、常に「理念」を意識しながらケアを行なえるようにしている。	毎朝、申し送り時に唱和することで、職員一人ひとりが理念を理解、周知している。理念に基づき毎年の事業計画を立て、取り組み、実践につなげている。日頃の会議や年1回の自己評価の中で振り返りの機会も持っており、職員が常に理念、事業計画を意識しながら業務を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の一員として町内清掃・運動会・ハロウィン等へ参加している。又、毎年小学2年生の町探検を受け入れ、地域の中で孤立することがないよう日常的に交流している。	地域とのつながりは深く、秋祭りでお神輿が事業所に来たり、事業所行事でのボランティアの参加や、小学生の訪問による交流会、近くの大学生による音楽療法、実習生の受け入れ等数多くある。近所の方からの野菜のおすそわけもあり、日常的に地域交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	年に4回のペースで「施設見学会・相談会」を開催し、地域の方が気軽に相談できる環境作りにも努めている。その成果もあり、会を重ねる度に相談者は増えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、知見を有する方をゲストでお招きしている。例えば、管理栄養士の方を招いて高齢者の食事について学び、消防署の方には、災害時に役立つ知恵を教えて頂いたりとサービスの向上に活かしている。	運営推進会議には各方面から幅広く参加され、毎回テーマを決め出前講座を行っている。出前講座の管理栄養士の話により、日頃の食事の参考にすることがあった。参加者より地域の情報を得て、行事参加した例などもあり、運営推進会議での意見、情報をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	2ヶ月に1回の運営推進会議には地域包括支援センターの方へ出席して頂き、日々のケアへの取り組み方などをほのぼの通信や写真などでわかりやすく報告し、アドバイスを頂いている。昨年度は、安佐南区の依頼を受け、認知症サポーターステップアップ講座の施設研修を受け入れました。	地域包括支援センター職員は毎回運営推進会議に参加され、事業所の状況を伝え、情報交換を図っている。入居者の紹介を受けるなど密に連携している。介護保険課には疑問点の連絡や、今回、コロナ禍での運営推進会議の開催方法についての相談を行うなど協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に行う研修を通して身体拘束をしないケアを理解し、自分自身の介護の仕方を見つめなおし、身体拘束をしないケアの徹底防止に努めている。又、エアコンが要らない時期は、玄関や窓は無施錠とし自由な暮らしを支援するための工夫に取り組んでいる。	研修会を定期的に行い、身体拘束をしないケアへの正しい理解と実践ができるようにしている。帰宅願望、転倒などのリスクのある利用者については、個々に応じた言葉かけや、ケアの工夫によって対応を行なっている。職員の対応で気になることがあれば、その都度指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員研修を通して高齢者虐待防止法を学び、自分自身の介護の仕方を振り返るよい機会ととらえ、日常生活の中で虐待の徹底防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	スタッフ会議において日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、必要と考えられる利用者様がおられた場合には、橋渡しができるように準備態勢を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、十分な時間を取り、分かりやすく説明を行う事を心掛けている。また、契約解除や料金改定の際には、不安や疑問点がないか個々の立場に立って確認し、理解・納得されるまで話し合いを重ねている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時には、必ず家族様に声をかけ、利用者様への支援方法を報告・相談をしている。その中で頂いた意見は、ケアへ反映させ、サービスの質の向上に役立てている。又、利用者様からの要望も叶えられるよう努力している。	面会時及び、電話をこまめに行い、家族の意見、要望を伺うようにしている。運営推進会議に多くの家族が参加されたり、年1回家族懇親会を開いており、そうした場でも話を聞くことができ、利用者の支援に活かしている。利用者には日常の中から思いを汲み取り、運営に反映させるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のスタッフ会議には、必ず代表取締役が出席し、職員の意見に耳を傾け、活かせるよう努力している。又、管理者は普段から積極的に職員と関わりを持ち、何でも話せる関係作りに努めている。	朝の申し送りや定期的な会議、日頃の業務の中でも職員の意見を聞く機会を設けている。行事計画、レクリエーションの内容、物品の購入、業務の流れなど職員から様々な意見や提案があり、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、管理者や職員の日々の努力や実績・勤務状況等を把握し、4月より給与が改定されました。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者や管理者は、職員一人一人のケアの力量を把握し、職員に必要な研修を受講させている。それを全職員に周知できるようスタッフ会議の中で伝達研修を行い、全職員がスキルアップできるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設とネットワークでつながっており、勉強会や研修会のお誘いを受けている。必要に応じて参加し、情報交換やサービスの質の向上に繋がっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前または入所時は、本人様と面談を行い、不安や要望等があった際には、納得して頂くまで傾聴し、安心して生活していく上での関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>家族様の声に耳を傾けながら、真摯に受け止め信頼関係が構築できるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人様の「思い」「ADL」を正確に把握し、その都度今のケアでよいのか各部署で相談し、一番適切なサービスを見極めている。その中で必要に応じて他のサービス利用の調整も行うなど柔軟な対応に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>日常生活の中で常に共に過ごし、助け合い、支え合う関係作りを築けるように努めている。本人と時間をかけて関わっていき、より本人様を知る努力を重ねている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>日頃の本人様の様子を面会時に報告し、又来苑されない方には、電話にて報告し、入所後も本人様の生活を共に支えあう関係を築ける努力を重ねている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>在宅時、近所付き合いがあった方が来苑され、又、ご家族様の協力が入所前によく行かれていたお店に定期的に出掛けられたりと馴染みの人・場所ともに関係が途切れないように支援している。</p>	<p>家族だけでなく、近所の人、知人なども面会に来られる。家族による自宅への外出や墓参りもある。事業所の職員で利用者を連れて以前住んでいた場所に行った例もあり、馴染みの人や場との関係継続の支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲良くなられた利用者様同士が悩みごとを相談し合い、愚痴を言い合ったり、励ましあったりと共に支え合い、助け合いながら暮らせるよう利用者様同士のよりよい関係作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も必要に応じて援助・相談を行い、少しでもお力になればとの思いで支援している。又、他施設へ入所される際には、入所先へこちらが知り得る本人様の情報提供を行い、環境や生活習慣の継続性を配慮してもらうように働きかけている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員の一人一人が利用者様の思いや意向に関心をはらい把握しようと様々な努力をしている。把握が困難な場合は、表情から心を汲み取るように努めご家族と相談しながら常に本人の気持ちを把握できるように配慮している。	日頃の関わりの中から、利用者の思いや意向を探り、申し送り時、会議等を通じて職員間で情報を共有し対応している。利用者の意向により、食事内容を考えたり、趣味を活かし編み物を行うなど個々に応じた支援をしている。意思疎通が困難な場合は家族に何ったり、生活歴を紐解き対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用したり、その都度御家族へ聞き取り調査を行い、これまで生きてこられた記録を辿るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々変化する利用者様の状況を毎日朝の申し送りで報告し、記録にとどめ、全職員が情報を共有できるように努めている。又、本人様のできる力を暮らしの中で発見するように日々努めている。		

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・家族様の意向と多職種の意見を汲み入れながら本人の希望を考慮し、現在の状態に即したケアプランになることを常に心がけながら作成している。</p>	<p>利用者には日頃の関わりの中で、家族には電話などで意向を確認している。職員からの意見も吸い上げ、介護計画を作成しており、本人の望む暮らしや、取り組めることを盛り込み、現状に即した内容になっている。モニタリングは毎月行い、サービス内容についてのチェックは毎日行い、実施状況の把握をしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>職員一人一人が日々の様子の中で気付いたことを記録に留め、情報が共有できるようにしている。又、身近で支える介護士にケアプランの実施状況について月ごとに気づきを記入してもらい、現状把握に努め、変化に応じて都度見直している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その時々状況に応じて、介護保険サービスだけでなく、インフォーマルサービス・医療保険サービスを活用するなど視野を広げ多様なサービスを活用するべく努力している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>日頃から地域の民生委員・ボランティア・自治会長の方々と積極的に交流を図り、施設を知ってもらうことで多くの地域資源に楽しく参加することができる。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医の往診は、月2回だが、必要時・緊急時には、常に連絡がとれる体制が出来ている。又、清潔な口腔内を保つ為、個別かつ定期的に歯科往診も導入している。ともにそれぞれが良好な関係が築けている。</p>	<p>入居時に本人、家族の意向に感じかかりつけ医を決めており、内科については往診可能な事業所の協力医に変更される場合が殆どである。皮膚科、眼科、精神科等は入居前の病院に引き続き受診している利用者もおり、基本的に家族対応であるが、難しい場合は事業所で送迎、付き添いの支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護士は、日頃から状態の変化・異常の早期発見に気付けるよう細かく観察する習慣ができています。又日頃から看護師との関係を密に取りながら必要時は連携して支援に当たっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に本人様の情報・ケアについての正確な情報を提供している。又長期入院になると本人様のストレスが増大する為、当苑でできるリハビリ等を提供し、できるだけ早期に退院できるよう相談させて頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期における対応に関する指針を説明するとともに、その時を迎えた場合のケアについて、ご家族・かかりつけ医・看護師・介護職員・ケアマネジャーで十分に話し合い、チームで連携して支援している。	事業所で看取りを希望される家族が多く、かかりつけ医は24時間連絡体制が整っている。事業所で看取りを行っており、これまでも何例も経験がある。かかりつけ医、家族、職員で連携を図り、方向性やより良いケアができるよう話し合い、事業所で最期を迎えられる支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変・事故発生時に対応できるように定期的に学んでいる。スタッフ会議を利用し、看護師に応急処置の指導を行ってもらったり、日頃より急変や事故発生時の看護師の処置を観察したりと慌てず実践できるように訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎月、消防・地震・災害(水害・土砂)訓練のどれかを利用者様と一緒にを行い、月初めには、各々夜勤者による消防訓練を行い、冷静に対応できるよう訓練を重ねている。又、地域の自主防災会にも所属し、協力が得られる体制を整えている。さらに災害発生時に備えて食料やプロパンガス・簡易トイレ・発電機・ライフジャケットなどを備蓄し、災害時に備えている。	毎月の防災訓練、月初めの夜勤者による消防訓練の実施、11月は「防災デー」とした避難訓練、防災食を食べる等、有事に備えた取り組みを積極的に行っている。地域の防災会の所属や災害時に近所の2階に避難をさせて頂くよう約束も交わしており、地域の協力体制も得られている。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員同士で注意し合いながら全職員で利用者様の人格の尊重とプライバシーの確保に取り組んでいる。	日頃の関わりの中で利用者の人格の尊重とプライバシーを確保した言葉かけ、対応を行っている。入浴時本人の意向に合わせて同性介助を行う事や排泄、パッド交換時扉を閉める・排泄の事を大きな声で話さない、利用者を愛称や下の名前で呼ばない等の配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員と1対1になる散歩や入浴時は、願いや希望を語っていただけることが多い為、本人様と積極的に会話するようにしている。言葉で十分意志表示できない場合は、表情をくみ取りながら希望や好みを把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的に利用者様の生活リズムに合わせて、起床・入浴・食事時間も個別に対応するなど一日の過ごし方を柔軟に変えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望される方には近所の美容院へご案内したり、2ヶ月に一度訪問理美容を来苑して頂いている。その際には、本人様に希望をお聞きし、希望に添えるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は、毎食手作りを基本とし、冷凍食品やレトルト食品は使用せず、見た目にも十分配慮しながら食事を美味しく食べていただけるように配慮している。利用者様とともに食事の下準備・片付けを行いながら、食事の時間を楽しんで頂いている。	食事は3食とも手作りで利用者の希望をメニューに反映させ、また、バイキングを行ったり、おせち料理を作る等工夫を重ねた対応をしている。食事の下準備や片付け、おやつ作り、時には食材の買い物に行く機会もあり、利用者の持っている力を活かし、食事を楽しむことができるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>1日の食事量・水分量を記録し、適切な食事量・水分量を把握している。又その中で、残食が目立つ方には、代替品や味付けなど工夫し、盛り付ける器にも配慮している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアでは、必ず仕上げ磨きを行っている。又、定期的に歯科往診にも来苑して頂き、異常の早期発見・清潔の保持に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>利用者様ごとで排泄記録を作成し、排泄パターンを探りながら全利用者様ができる限りトイレで排泄できるように全職員で一丸となって取り組んでいる。その効果もあり、おむつの使用量が減少している方もいる。</p>	<p>排泄の記録をもとに利用者の排泄パターンを把握し、個別支援を行っている。定期的に行われるパッド委員会でも、排泄、パッドの見直しについて話がなされている。本人の有する能力を活かした取り組みにより、紙パンツから布パンツに移行した利用者も多くおり、自立に向けた支援をしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>1日の食事の中で乳酸菌・繊維質のものを取り入れたり、毎日の運動の中に腸トレ体操を行うなど便秘予防に努めている。排泄表を活用しながら便秘の原因を探り、個別にメニューを提供したりと工夫に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴担当の職員は、くつろいだ気持ちで入浴できるよう本人様がお好きな話題で会話を盛り上げるなど工夫に努めている。</p>	<p>入浴は基本的に週2回実施しており、利用者の好みに応じ入浴の順番を考慮したり、入浴時間もゆっくり浸かるなど柔軟に対応している。利用者との会話や一緒に歌うなど入浴の時間が楽しい一時になるよう工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>夜間の睡眠時間を把握し、睡眠時間の短い方については日中の休息時間を工夫している。夜間、寝れない時も無理強いせず、本人様のペースに合わせて支援を心がけている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>看護師と薬剤師は関係を密にし、薬の飲み合わせや副作用について情報を共有し、協力しながら支援している。時には、看護師より利用者様の状況を情報提供し、錠剤から細粒に変更したりと確実に服薬できるよう連携を図っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>習字が趣味だったり、草取りがお好きなど、一人一人の得意なこと・お好きなことを職員間で情報を共有し、時にそれを生かせる場所を提供し、少しでも張り合いのある生活が送れるように支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>天気の良い日は、苑外散歩に出かけることを日課とし、外気に触れる事で季節を感じながら気分転換を図って頂いている。お花見や紅葉狩りのシーズンには、少し遠い名所まで散歩やドライブを楽しんで頂き、お誕生日には、本人様の希望されることを叶えて差し上げる日と位置づけ楽しく過ごして頂いている。</p>	<p>コロナ禍で外出が制限されるが、それまでは初詣や花見、紅葉狩り、買物、外食、地域行事の参加など積極的に外出を行っていた。家族の協力による自宅などへの外出もあった。現在は気候をみながら日常的に散歩に出かけており、戸外で過ごせるよう工夫しながら、支援をしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>現在、入所されておられる方で金銭管理ができる方はおられない為、事務所で保管し必要時使えるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(東ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自分から手紙を書かれることはないが、定期的に手紙が届く方もあり、その際には手渡ししている。又、電話をかけたいと希望があれば都度苑の電話を使用して頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関先には沢山の花の苗を植え、東西各ユニットにおいては、季節ごとに壁画を作成し、季節を感じて頂けるように工夫している。こまめに換気をしたり、不快な音を立てないなど居心地のよい空間になるよう工夫している。	各ユニットで毎月テーマを決め利用者と一緒に壁画を作成しており、折り紙や絵の具等を使い、色鮮やかな作品ができ、それぞれのユニットに飾っている。リビングは明るい光が差し込み開放的で時には音楽を流し、リラックスして過ごせるよう工夫している。ガーデンスペースでお茶等の時間を持つこともできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	独りになりたいときには、無理強いせず、気のあう利用者様同士は隣席に座って頂けるよう一人ひとりがストレスなく過ごせるような環境作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は、自宅で使い慣れた家具を持参されたり、家族写真を飾って頂いたりとその人らしく暮らせる部屋となるよう工夫している。	家族に、自宅で使い慣れた馴染みの物を持参していただくように伝え、ダンス、仏具など各利用者が思い思いの調度品を持って来られている。また、家族の写真を飾るなど、自宅同様の落ち着きが得られる居室環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	リビング・廊下は、車椅子や独歩で自由に行動できるように十分な広さを確保している。又トイレには、ファンレストテーブルを設置し、排泄時の安全な座位の保持にも配慮している。		

V アウトカム項目(東ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	毎朝、申し送り時、理念である「私たちは、真心と笑顔を持ち、やすらげる環境の中でお一人お一人を尊重し、楽しみ・喜びのある生活を送って頂けるように支援します」を唱和し、常に「理念」を意識しながらケアを行なえるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の一員として町内清掃・運動会・ハロウィン等へ参加している。又、毎年小学2年生の町探検を受け入れ、地域の中で孤立することがないよう日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	年に4回のペースで「施設見学会・相談会」を開催し、地域の方が気軽に相談できる環境作りに努めている。その成果もあり、会を重ねる度に相談者は増えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議には、知見を有する方をゲストでお招きしている。例えば、管理栄養士の方を招いて高齢者の食事について学び、消防署の方には、災害時に役立つ知恵を教える機会とサービスの向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	2ヶ月に1回の運営推進会議には地域包括支援センターの方へ出席して頂き、日々のケアへの取り組み方などをほのぼの通信や写真などでわかりやすく報告し、アドバイスを頂いている。昨年度は、安佐南区の依頼を受け、認知症サポーターステップアップ講座の施設研修を受け入れました。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に行う研修を通して身体拘束をしないケアを理解し、自分自身の介護の仕方を見つめなおし、身体拘束をしないケアの徹底防止に努めている。 又、エアコンが要らない時期は、玄関や窓は無施錠とし自由な暮らしを支援するための工夫に取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員研修を通して高齢者虐待防止法を学び、自分自身の介護の仕方を振り返るよい機会ととらえ、日常生活の中での虐待の徹底防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	スタッフ会議において日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、必要と考えられる利用者様がおられた場合には、橋渡しができるように準備態勢を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、十分な時間を取り、分かりやすく説明を行う事を心掛けている。また、契約解除や料金改定の際には、不安や疑問点がないか個々の立場に立って確認し、理解・納得されるまで話しあいを重ねている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時には、必ず家族様に声をかけ、利用者様への支援方法を報告・相談をしている。その中で頂いた意見は、ケアへ反映させ、サービスの質の向上に役立てている。又、利用者様からの要望も叶えられるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のスタッフ会議には、必ず代表取締役が出席し、職員の意見に耳を傾け、活かせるよう努力している。又、管理者は普段から積極的に職員と関わりを持ち、何でも話せる関係作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、管理者や職員の日々の努力や実績・勤務状況等を把握し、4月より給与が改定されました。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者や管理者は、職員一人一人のケアの力量を把握し、職員に必要な研修を受講させている。それを全職員に周知できるようスタッフ会議の中で伝達研修を行い、全職員がスキルアップできるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設とネットワークでつながっており、勉強会や研修会のお誘いを受けている。必要に応じて参加し、情報交換やサービスの質の向上に繋がっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前または入所時は、本人様と面談を行い、不安や要望等があった際には、納得して頂くまで傾聴し、安心して生活していく上での関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族様の声に耳を傾けながら、真摯に受け止め信頼関係が構築できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様の「思い」「ADL」を正確に把握し、その都度今のケアでよいのか各部署で相談し、一番適切なサービスを見極めている。その中で必要に応じて他のサービス利用の調整も行うなど柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活の中で常に共に過ごし、助け合い、支え合う関係作りを築けるように努めている。本人と時間をかけて関わっていき、より本人様を知る努力を重ねている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃の本人様の様子を面会時に報告し、又来苑されない方には、電話にて報告し、入所後も本人様の生活を共に支えあう関係を築ける努力を重ねている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	在宅時、近所付き合いがあった方が来苑され、又、ご家族様の協力が入所前によく行かれていたお店に定期的に出掛けられたりと馴染みの人・場所ともに関係が途切れないように支援している。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲良くなられた利用者様同士が悩みごとを相談し合い、愚痴を言い合ったり、励ましあったりと共に支え合い、助け合いながら暮らせるよう利用者様同士のよりよい関係作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も必要に応じて援助・相談を行い、少しでもお力になればとの思いで支援している。又、他施設へ入所される際には、入所先へこちらが知り得る本人様の情報提供を行い、環境や生活習慣の継続性を配慮してもらうように働きかけている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員の一人一人が利用者様の思いや意向に関心をはらい把握しようと様々な努力をしている。把握が困難な場合は、表情から心を汲み取るように努めご家族と相談しながら常に本人の気持ちを把握できるように配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式を活用したり、その都度御家族へ聞き取り調査を行い、これまで生きてこられた記録を辿るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々変化する利用者様の状況を毎日朝の申し送りで報告し、記録にとどめ、全職員が情報を共有できるように努めている。又、本人様のできる力を暮らしの中で発見するように日々努めている。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族様の意向と多職種の意見を汲み入れながら本人の希望を考慮し、現在の状態に即したケアプランになることを常に心がけながら作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員一人一人が日々の様子の中で気付いたことを記録に留め、情報が共有できるようにしている。又、身近で支える介護士にケアプランの実施状況について月ごとに気づきを記入してもらい、現状把握に努め、変化に応じて都度見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々状況に応じて、介護保険サービスだけでなく、インフォーマルサービス・医療保険サービスを活用するなど視野を広げ多様なサービスを活用するべく努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	日頃から地域の民生委員・ボランティア・自治会長の方々と積極的に交流を図り、施設を知ってもらうことで多くの地域資源に楽しく参加することができる。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医の往診は、月2回だが、必要時・緊急時には、常に連絡がとれる体制が出来ている。又、清潔な口腔内を保つ為、個別かつ定期的に歯科往診も導入している。ともにそれぞれが良好な関係が築けている。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護士は、日頃から状態の変化・異常の早期発見に気付けるよう細かく観察する習慣ができています。又日頃から看護師との関係を密に取りながら必要時は連携して支援に当たっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に本人様の情報・ケアについての正確な情報を提供している。又長期入院になると本人様のストレスが増大する為、当苑でできるリハビリ等を提供し、できるだけ早期に退院できるよう相談させて頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化や終末期における対応に関する指針を説明するとともに、その時を迎えた場合のケアについて、ご家族・かかりつけ医・看護師・介護職員・ケアマネジャーで十分に話し合い、チームで連携して支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変・事故発生時に対応できるように定期的に学んでいる。スタッフ会議を利用し、看護師に応急処置の指導を行ってもらったり、日頃より急変や事故発生時の看護師の処置を観察したりと慌てず実践できるように訓練している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎月、消防・地震・災害(水害・土砂)訓練のどれかを利用者様と一緒に、月初めには、各々夜勤者による消防訓練を行い、冷静に対応できるよう訓練を重ねている。又、地域の自主防災会にも所属し、協力が得られる体制を整えている。さらに災害発生時に備えて食料やプロパンガス・簡易トイレ・発電機・ライフジャケットなどを備蓄し、災害時に備えている。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員同士で注意し合いながら全職員で利用者様の人格の尊重とプライバシーの確保に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員と1対1になる散歩や入浴時は、願いや希望を語っていただけることが多い為、本人様と積極的に会話するようにしている。言葉で十分意志表示できない場合は、表情をくみ取りながら希望や好みを把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的に利用者様の生活リズムに合わせて、起床・入浴・食事時間も個別に対応するなど一日の過ごし方を柔軟に変えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望される方には近所の美容院へご案内したり、2ヶ月に一度訪問理美容を来苑して頂いている。その際には、本人様に希望をお聞きし、希望に添えるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は、毎食手作りを基本とし、冷凍食品やレトルト食品は使用せず、見ためにも十分配慮しながら食事を美味しく食べていただけるように配慮している。利用者様とともに食事の下準備・片付けを行いながら、食事の時間を楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>1日の食事量・水分量を記録し、適切な食事量・水分量を把握している。又その中で、残食が目立つ方には、代替品や味付けなど工夫し、盛り付ける器にも配慮している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアでは、必ず仕上げ磨きを行っている。又、定期的に歯科往診にも来苑して頂き、異常の早期発見・清潔の保持に努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>利用者様ごとで排泄記録を作成し、排泄パターンを探りながら全利用者様ができる限りトイレで排泄できるように全職員で一丸となって取り組んでいる。その効果もあり、おむつの使用量が減少している方もいる。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>1日の食事の中で乳酸菌・繊維質のものを取り入れたり、毎日の運動の中に腸トレ体操を行うなど便秘予防に努めている。排泄表を活用しながら便秘の原因を探り、個別にメニューを提供したりと工夫に努めている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴担当の職員は、くつろいだ気持ちで入浴できるよう本人様がお好きな話題で会話を盛り上げるなど工夫に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間の睡眠時間を把握し、睡眠時間の短い方については日中の休息時間を工夫している。夜間、寝れない時も無理強いせず、本人様のペースに合わせて支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師と薬剤師は関係を密にし、薬の飲み合わせや副作用について情報を共有し、協力しながら支援している。時には、看護師より利用者様の状況を情報提供し、錠剤から細粒に変更したりと確実に服薬できるよう連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	習字が趣味だったり、草取りがお好きなど、一人一人の得意なこと・お好きなことを職員間で情報を共有し、時にそれを生かせる場所を提供し、少しでも張り合いのある生活が送れるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気のよい日は、苑外散歩に出かけることを日課とし、外気に触れる事で季節を感じながら気分転換を図って頂いている。お花見や紅葉狩りのシーズンには、少し遠い名所まで散歩やドライブを楽しんで頂き、お誕生日には、本人様の希望されることを叶えて差し上げる日と位置づけ楽しく過ごして頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現在、入所されておられる方で金銭管理ができる方はおられない為、事務所で保管し必要時使えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(西ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自分から手紙を書かれることはないが、定期的に手紙が届く方もあり、その際には手渡ししている。又、電話をかけたいと希望があれば都度苑の電話を使用して頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関先には沢山の花の苗を植え、東西各ユニットにおいては、季節ごとに壁画を作成し、季節を感じて頂けるように工夫している。こまめに換気をしたり、不快な音を立てないなど居心地のよい空間になるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	独りになりたいときには、無理強いせず、気のあう利用者様同士は隣席に座って頂けるよう一人ひとりがストレスなく過ごせるような環境作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は、自宅で使い慣れた家具を持参されたり、家族写真を飾って頂いたりとその人らしく暮らせる部屋となるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	リビング・廊下は、車椅子や独歩で自由に行動できるように十分な広さを確保している。又トイレには、ファンレストテーブルを設置し、排泄時の安全な座位の保持にも配慮している。		

V アウトカム項目(西ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 ほのぼの苑 長東

作成日 令和2年11月6日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	来訪を遠慮されておられる家族様がおられる。	家族様が遠慮される事なく自由に来訪できる雰囲気作りに努める。	家族様も含めた交流する場（行事等も含む）を増やす。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。